

## 主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 38

### コロサイ人への手紙において（3）

#### 新しい人の構成要素

聖書：コロサイ 3:4, 10-16. ピリピ 1:8. ピレモン 7, 12, 20 節

#### I. キリストは一人の新しい人の構成要素です——コロサイ 3:10-11：

- A. 神のエコノミーにおける神の意図とは、キリストがすべてとなることです。ですから、神がキリストのほかは何も欲しておらず、神の目にキリスト以外は何も勘定されないということをわたしたちが見ることは極めて重要です——マタイ 17:5. コロサイ 1:18. 2:2, 17. 3:4, 10-11。
- B. 新しい人としての召会の中で、キリストはすべてであり、すべての中におられます——11 節：
1. 一人の新しい人の中には天然の人はいません。またいかなる天然の人に対する可能性も、余地もありません——10-11 節：
    - a. 多くのさまざまな種類の人々が一人の新しい人を構成しますが、すべての人はキリストの一部分です。もはや天然の人はいません。
    - b. 一人の新しい人にはただ一人の人、すなわちすべてを含むキリストだけがいます——2:17. 3:4, 11。
    - c. 一人の新しい人は、広がるキリストであり、拡大されたキリストです——2:19. エペソ 4:16, 24。
  2. わたしたちはキリストの中にいることから離れて、一人の新しい人へと創造されることはできなかつたでしょう。なぜなら、わたしたちは自分自身の中に神聖な本質、すなわち新しい人の要素を持っていないからです——2:15：
    - a. 神聖な本質の中で、また神聖な本質をもってのみ、わたしたちは一人の新しい人へと創造されました。ただキリストの中でのみこの本質を持つことができます。
    - b. キリストご自身が新しい人の本質です。このゆえに、彼はご自身の中で、二つのもの、すなわちユダヤ人とギリシヤ人を一人の新しい人へと創造しました。
    - c. キリストは一人の新しい人の中ですべてです。なぜなら、彼は、新しい人が創造された本質であるからです。ですから、一人の新しい人はキリストです。
  3. キリストは一人の新しい人の中ですべての肢体であり、すべての肢体の中におられます——コロサイ 3:11：
    - a. わたしたちの中に住んでいるキリストは、一人の新しい人の構成要素です——1:27. 3:11。
    - b. キリストが新しい人のすべての肢体であられるので、新しい人の中にはどんな人種、国籍、文化、社会的な地位のための余地もありません——10-11 節。
    - c. わたしたちはキリストの実際が新しい人のすべての肢体であることを経験する

ために、キリストをわたしたちの命またパーソンとし、わたしたち自身ではなく、彼を生きる必要があります——ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:20-21 前半：

(1) もしキリストが、一人の新しい人のすべての肢体の生活であるなら、実際において彼だけが新しい人の中になります——コロサイ 3:10-11。

(2) すべての聖徒がキリストを生きる時、キリストは実際の、実行上の方法で新しい人の中のすべての肢体となります—— 11 節。

d. わたしたちは、キリストが一人の新しい人のすべての肢体であるので、自分が無であり、必要とされないと考えるべきではありません。キリストが新しい人のすべての肢体の中におられるという事実は、肢体が存在し続けることを示します—— 11 節。

4. わたしたちがキリストで浸透され、満たされ、飽和され、有機的な過程を通して彼によって置き換えられるとき、一人の新しい人は存在するに至ります—— II コリント 3:18：

a. 新しい人とは、すべての聖徒の中にいるキリストであり、彼はすべての天然の区別が取り除かれ、すべての人がキリストから構成されまで、わたしたちを飽和し、置き換えます。——コロサイ 3:11。

b. すべてを含むキリストは、わたしたちの天然の存在をご自身で置き換えるまで、わたしたちの中へと有機的に造り込まなければなりません——エペソ 3:17 前半. ガラテヤ 4:19。

**II. わたしたちはキリストで構成されている新しい人として、キリスト・イエスの心の深みの中で召会生活を持つべきです——コロサイ 3:12-16. ピリピ 1:8. ピレモン 7, 12, 20 節：**

A. 人として、キリストには心の深みとそのさまざまな機能がありました。また、キリストの心の深みの中での経験は、彼の思い、感情、意志、魂、心、霊の中での経験であり、彼の愛、願い、感覚、考え、決定、動機、意図を含んでいました——ルカ 2:49. ヨハネ 2:17. マタイ 26:39. イザヤ 53:12. 42:4. マルコ 2:8。

B. パウロは、絶えずキリストの心の深みを経験していた人でした——ピリピ 2:5, I コリント 2:16 後半. ローマ 8:6：

1. パウロはキリストの心の深みの中で、すなわちキリストの愛情、優しいあわれみ、同情の中でさえキリストと一でした。

2. パウロは自分自身の心の深みを保たずに、キリストの心の深みを自分のものとなりました：

a. 彼はキリストの思いだけでなく、キリストの内なる存在全体も取り入れました——エペソ 3:16-17。

b. パウロの内なる存在は変えられ、再配列され、再構築されました——ガラテヤ 4:19。

c. パウロは内なる存在は、キリストの心の深みで再構成されました——ピリピ 2:5。

3. キリストの中に真理、すなわち誠実、信実、信頼としてあったものは、パウロの中にもありました—— II コリント 11:10。

4. 聖徒たちに対するパウロの愛は、彼の天然の愛ではなく、キリストにある愛、す

なわちキリストの愛でした。こうして、パウロは彼の天然の愛によってではなく、キリストの愛によって聖徒たちを愛しました——I コリント 16:24。

- C. 新しい人の構成要素としてのキリストを生きることは、わたしたちがキリスト・イエスの心の深みの中にとどまることを必要とします——ピリピ 1:21 前半, 8. コロサイ 3:4, 10-11 :
1. パウロはキリストの心の深みを経験しました。彼は聖徒たちを恋い慕うことにおいて、キリストの心の深みと一でした——ピリピ 1:8。
  2. パウロは自分の天然の内なる存在の中で生活しませんでした。彼はキリストの心の深みの中で生活しました——コロサイ 3:12。
  3. わたしたちがキリストの中にいる人でありたいなら、彼の心の深みの中に、彼の優しく繊細な感覚の中になければなりません——ヨハネ 15:4, 9-11。
  4. キリストを生きることは、彼の心の深みの中に住み、そこで彼を恵みとして享受することです——ピリピ 1:7. 4:23。
- D. ピレモンへの手紙には、新しい人としての召会がキリスト・イエスの心の深みの中で生きていた絵があります——7, 12, 20 節 :
1. 心の深みは、内側の愛情、情け深さ、同情を表徴します——ピリピ 1:8. 2:1. コロサイ 3:12. ピレモン 7, 20 節。
  2. パウロの内側の愛情と同情は、オネシモと共にピレモンの所へ行きました——12 節。
  3. わたしたちは召会生活の中で、心の深みがキリストの中で新鮮にされる必要があります——7, 20 節。
- E. わたしたちがキリスト・イエスの心の深みの中で生きれば生きるほど、新しい人へのわたしたちの感覚はますます大きくなり、新しい人の構成要素としてのキリストを生きたいというわたしたちの願いはますます強くなります。それは、実際において、キリストがすべてであり、すべての中におられるようになるためです——コロサイ 3:4, 10-11。